

5. おわりに

JR トンネルのコンクリート片剥落事故が報道された時、「科学技術が進歩した時代に建設業界はまだ“たたき試験”という旧態依然の手法で行っている」という旨の記事や社説が掲載されていました。また、最近の国の重点研究課題も、ゲノム、情報通信、ナノテク、バイオなどの先端的科学技術に重点的に目が向けられており、その結果は当然のこととして大学の重点研究の採択にも反映しています。私が所属する長崎大学でも、建築・土木系から提案した研究に対しては、ナノテク、情報通信の分野に比較して工学部ではあまり高い評価は得られていません。

このような社会的評価の中、第3期科学技術基本計画に向けて次のようなことが提言されました。

科学技術には“社会的技術”という理論や実用化が確立された領域を対象とする科学技術が存在する。これは様々な要素技術を統合・高度化し、また、フィールドでの改良を必要とする技術である。インフラ構造物の診断と長寿命化技術は重点領域の一つである。

残念ながら、この提言は第3期科学技術基本計画の中には取り入れられませんでした。が、“社会的技術”という言葉を広く普及していく必要があると思います。

道路ストックをはじめとする、河川、港湾、電気、水道、ガスなどのインフラ構造物を適切に維持管理していくことは、“人の安全・安心”を支えることです。今年の8月のクレーン船の送電線接触による首都圏大停電、9月のJR東京駅での火災による京葉線全線不通、台風13号通過による停電、9月30日に発生したカナダ・モントリオールで高速道路の跨道橋、の崩落、等々、“人の安全・安心”を脅かす事故・災害は枚挙にいとまがありません。

インフラ整備・維持管理、リスク管理などの社会的技術は、本来工学が担ってきた基盤科学技術であり、社会的技術の持続的繁栄は、バイオ、ナノテク、情報通信、そして自動車産業等の先端科学技術の繁栄を支えることにも繋がるものであることは、誰もが認識していることだと思います。

作家塩野七生氏は、ローマ人の物語Xで、「インフラとは、“人間が人間らしい生活をおくるために必要な大事業”ある」と記されています。そして、「インフラとは膨大な経費をかけ多くの人々が参加し長い年月を要して現実化するもの」、「インフラがどうなされるかは、その民族のこれから進む道まで決めてしまう」とも……………。

1980年代の「荒廃するアメリカ」とならないためにも、あらゆる技術を駆使して、インフラ長寿命化戦略を推進していく必要があります。

最後に、本研究の活動に際しては、多くの方々からのご協力とご支援を賜りました。本研究成果がさらに発展し、インフラ構造物の長寿命化の技術に有効に利用されていくことを祈念しますとともに、インフラ構造物の長寿命化の仕事に携わる誇りと使命をいつも思い浮かべるように、末尾に「評伝 山に向かいて目を挙ぐ—廣井勇の生涯—」に記載されている言葉を引用して、感謝の意を申し上げます。

若し工学が唯に人生を繁雑にするのみのものならば何の意味もない事である。是によって数日を要する所を数時間の距離に短縮し、一日の労役を一時間に止め、人をして静かに人生を思惟せしめ、反省せしめ、神に帰るの余裕を与えないものならば、吾等の工学は全く意味を見出すことはできない。

廣井 勇 (札幌農学校、東京帝大教授、6代土木学会会長)

(松田 浩)